

温度保持による調乳器具の殺菌

立正大短大 ○新藤由喜子

日本女大家政 青島郁子

目的 調乳器具の殺菌は、主に煮沸消毒または薬剤による消毒によつて行われてきた。しかし、両者とも保育者にとっては時間的、経済的な理由による負担から継続しにくい現状にある。

調乳器具一式に対して温湯を用いてその温度を保持することにより、殺菌効果が期待できないかと考え、本研究に着手した。

方法 哺乳びん、乳首、プラスチック製キャップと一般家庭で使われている土鍋、ホーロー鍋、パイレックス鍋、アルミ鍋、ステンレスボールに入れ、魔法びんの温湯(85℃)を満し、ふたをして保温し、経時的に温度測定を行った。

次いで、常法により調製した調乳に *Escherichia coli* と *Staphylococcus aureus* を用いて人為的に汚染させた。哺乳びん、乳首、プラスチック製キャップと上述の容器に入れ、85℃の温湯を満しふたをして保温し、供試菌の生残を調べた。

結果 アルミ鍋を除いて他の容器はいずれも30分間は60℃以上を保持できた。

供試菌により汚染された哺乳びん、乳首、キャップを容器に入れ、85℃の温湯で満し30分後その温湯中の供試菌を平板培養法で調べたが、生残菌は検出できなかった。これはそれぞれの供試菌の温度に対するこれまでの報告と一致する。

この方法によれば調乳器具は次の調乳時まで無菌状態を維持できるので、二次汚染の防止にも役立つ。また、授乳時の後片づけの一環として行えば、保育者の負担も極めて小さく、保育期間中継続して調乳器具の衛生的管理が行われると考えられる。